

令和7年8月20日

賛育会プロジェクト第三者検証委員会御中

賛育会病院の内密出産およびベビーバスケットに関する ご見解のお伺い

医療法人聖粒会 慈恵病院
理事長兼院長 蓮田健

残暑の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて当院は「こうのとりのゆりかご」(赤ちゃんポスト)や内密出産の活動を通じて、匿名性を求める妊産婦さんからのご相談を全国からいただいております。この中には首都圏からのご依頼も少なくありません。特に匿名での出産を求める女性からのご相談につきましては、熊本からの距離の問題から対応に苦慮することもしばしばです。

そのような中、都内在住で内密出産を求める女性からの相談がございました。この方は仮名を佐藤さんとおっしゃいます。佐藤さんから最初にご相談いただきましたのは今年の4月でしたが、以来ショートメッセージやLINEを通じてやり取りを重ねています。

佐藤さんは賛育会病院で内密出産をしたいと願い、同院にご相談なされたのですが、同院の職員様にそれを断られ、身元を明かした上でのお産を余儀なくされました。出産日近くには、出産をご実家に知られてしまうことの恐れから不安が強まり、混乱状態にも陥りました。私や当院の職員は佐藤さんの保護を試みましたが叶わず、最終的には陣痛発来時に救急車で搬送され貴院で出産なさいました。

佐藤さんは同院の働きかけにより内密出産を断念しなければならなかったことや、経済的に困窮していたにも関わらず出産費用の負担を求められたことに強い不満をお持ちです。私も今回のご対応には問題点が多々認められると考えております。

そこで佐藤さんと私とのやり取りの記録をご報告し、私の意見書を添えさせていただきました。これらをご高覧いただき、本質問状にご回答いただければ幸いです。ご多忙の中恐れ入りますが、何卒よろしくお願いいたします。

ご回答につきましては3ヶ月後の令和7年11月20日にいただければ幸いです。場所をご指定いただければ、ご回答書をいただきにあげます。電子メール、あるいは当院にご郵送いただく形でも結構です。今年3月以来にも、当院には匿名性の保障を求める首都圏在住の妊婦さん方々からご相談をいただいております。この方々は出産費用を払えないため当院に相談なさっているのですが、その対応方針を決定する上でも貴区からのご回答は重要です。

なお内密出産およびベビーバスケットについて社会全体で考えていただくために、本質

問状および貴区からのご回答内容につきましては、報道機関を始め広く社会に公開させていただくことを前提としております。

記

(1) 佐藤さんの事例で保健師さんの対応につきましてご評価ください。

本事例の保健師様が貴区から派遣された方なのか、あるいは佐藤さんの居住区から派遣された方なのかを承知しておりません。しかしながら匿名希望の妊婦さんの場合、住所が分かりませんので、この場合には貴区がご担当になると拝察します。

今後発生する事例のことを考えますと、貴区の保健師様が本事例と同様の対応をなさるのか懸念しております。貴区のご方針を踏まえた上でご評価をいただければ幸いです。

(2) 貴区は内密出産において病院による匿名撤回についての説得、催告を推奨なさいますか。

内密出産では貴区の保健師様がご対応になるかと思えます。ご担当の方が女性の匿名性について、どのようなお立場で対応なさるのかをご教示ください。

(3) 今後、定期的に以下の数字を公表していただけますでしょうか。

- ・ベビーバスケットにおける預け入れ者と病院職員との接触率
- ・ベビーバスケットや内密出産における匿名の撤回率

私の推測では賛育会病院はベビーバスケットや内密出産において、これを求めた妊産婦に身元を明かすように説得しているのではないかと思います。ベビーバスケットは誰にも会わずに赤ちゃんを預けられるようになっていなければ、本来の目的にそぐわないのですが、賛育会病院では病院側が意図的に預け入れ者に接触しているものと推測します。

その実情は預けられた赤ちゃんの数と、預け入れ者の数との比率によって明らかになるはずですが、また2つのシステムを利用した人数と匿名性を撤回した人数との比率も匿名性の保障状況を第三者が知る上で重要です。

(4) 有料内密出産の請求費用の透明化をお求めになりますか。

内密出産希望の女性に現場で対応なさる行政のお立場として、賛育会病院が女性に請求する費用体系の透明化をお求めになりますか。

以上